

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご了承くださいませようお願いいたします。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) メインクエスト編



共通メインクエスト その3

青葉の思惑 ～ バスカロンドラザーズの掟

青葉の思惑

ミンフィリア : さて、お仲間が増えたところで……。早速だけど、頼みがあるの！
ウリエンジェさん。バリエーション委員会からの資料は届いてる？

ウリエンジェ : ええ、こちらに。

ミンフィリア : グリダニアのグランドカンパニー「双蛇党」から、調査依頼があったの。
イダ、ババリモ。説明をお願いできるかしら。

ババリモ : 双蛇党からの依頼は、グリダニアに棲む、シルフ族の動向を調査してほしいって内容だ。

イダ : シルフ族ってのは、ヘンちくりんな姿の種族でさ。空飛ぶギサールの野菜……みたいな？
蛭神「ラムウ」を信仰してるんだよね。

ババリモ : 蛭族といっても、好戦的なイクサル族とは違って、おだやかで対話が成立する相手さ。ありがたいことにね。

ミンフィリア : 蛭族から、蛭神の問題を直接聞くことができる、とても稀な機会ってわけね。

ババリモ : 蛭神「ラムウ」の存在は以前から確認されているけど、ここしばらく、シルフ族が神降ろし……。つまり、蛭神の召喚を行った形跡はない。
逆に言えば、召喚をされていないだけで、脅威となる可能性に変わりはない。

イダ : グリダニアにしてみれば、この蛭神「ラムウ」に、どう対処するのか悩みどころだろうね。

ババリモ : イクスル族の蛭神「ガルータ」は、現在、存在が確認されている蛭神の中でも最も狂暴と言われる存在だ。
グリダニアは蛭神「ガルータ」を抑えるのに精一杯だろうからな。

ミンフィリア : だから、できれば争うことなく対話で解決したい……。あなたの「超える力」は、相手との精神の壁……。言葉や心の壁を超えることができる。
シルフ族との対話で「蛭神問題」を解決するために、この調査に同行してほしいの。
ありがとう！

サンクレッド : そうと決まれば、今回こそ支援してあげたいところだが、あいにく、グリダニアの地理に疎くてね……。
ミンフィリア。ここは、グリダニア担当のイダ、ババリモに同行させるといいでしょう。

ミンフィリア : そうね。2人とも、お願いできるかしら？

イダ : まかせてちょうだい！

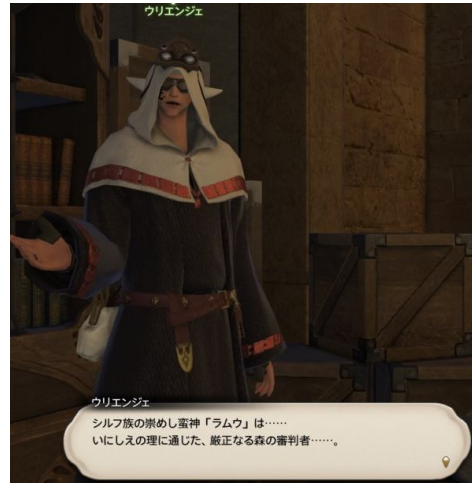
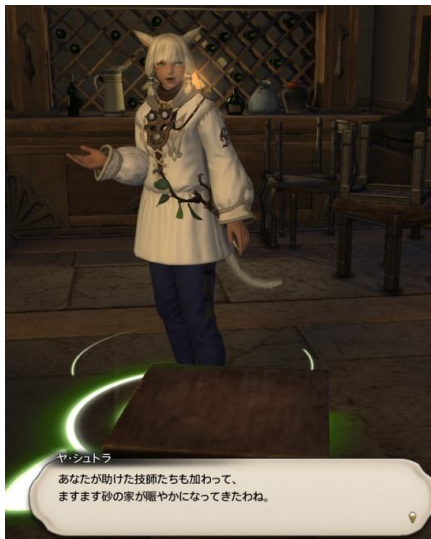
ババリモ : いいですとも！



ミンフィリア : 今回の任務はシルフ族の調査よ。彼らが蛭神「ラムウ」を召喚する前に、対話で解決することができないか、探してほしいの。
シルフ族との交流には戸惑うこともあるだろうけど、イダやババリモと力を合わせて頑張って！
わたしも、グリダニアの人たちも、朗報を期待しているわ。

ヤ・シュトラ : あなたが助けた技師たちも加わって、ますます砂の家が賑やかになってきたわね。
そういえば、ここに入るための条件を知っている？ 「暁」に能力を認められるか、タタルに気に入られるか……
彼女、人を見る目は確かなのよ。さすが受付ね。

ウリエンジェ : シルフ族の崇めし蜜神「ラムウ」は……いにしへの理に通じた、厳正なる森の審判者……。
伝承では、老人の姿で顕現するとされており……故に「森の古老」とも呼ばれています。

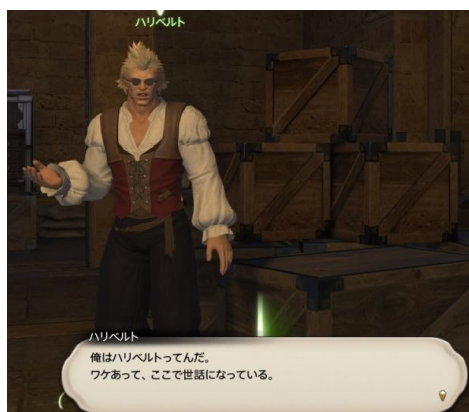
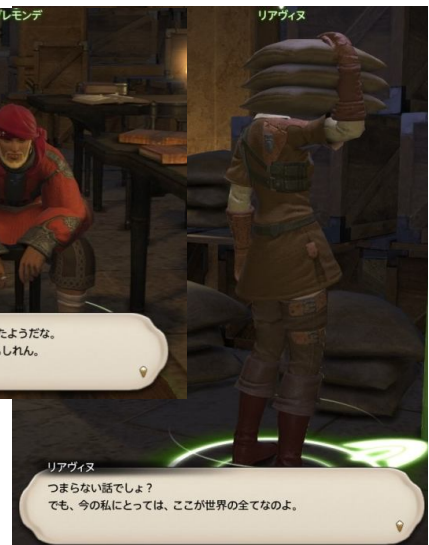
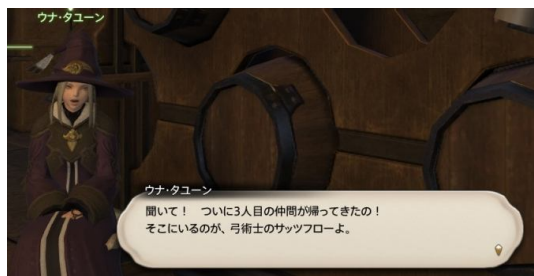


リアヴィヌ : 私ね、以前は冒険者をしていたの。ある日、偶然組んだパーティのリーダーに惚れたの。
……でも彼は、冒険中にあっさり死んじゃった。
しばらくは、何もやる気がしなかったわ……。そんな時、ここで下働きを募集してるって話を聞いたの。
何かしなきゃと思って、とりあえず来てみたわけ。
つまらない話でしょ？でも、今の私にとっては、ここが世界の全てなのよ。

ウナ・タューン : 聞いて！ ついに3人目の仲間が帰ってきたの！ そこにいるのが、弓術士のサツツフローよ。
いつもこの3人で組んで仕事をしていたの！ ……たぶんね。

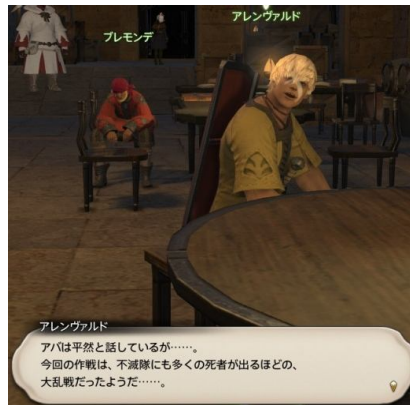
ハリベルト : 俺はハリベルトってんだ。ワケあって、ここで世話になっている。
戦うのは苦手だが、人づきあいは得意なほうだぜ。厄介ごとに巻き込まれたら、遠慮なく相談してくれよな。

ブレモンデ : どうやら兄貴は、あの商人に荷を運んできたようだな。なら、しばらく待ってれば、また来るかもしれん。
待たせてもらうとするか。



ア・アバ・ティア： お互い、ひと仕事終えたみたいじゃないか。
ザナラン中を走り回って、アマルジャの野郎がため込んできたクリスタルを片っ端からぶっとばしてきてやったぜ。

アレンヴァルド： アバは平然と話しているが……。今回の作戦は、不滅隊にも多くの死者が出るほどの、大乱戦だったようだ……。
だが、それを勝利に導いたのがアバらしい。神出鬼没に駆け回っては、アマルジャ族を攪乱したそうだ……。
やっぱり、あのアバは大したものだよ。



ボルセル大牙佐： ……いったい、シルフ族はどう動くんだろうねえ。「暁の血盟」に調査してもらわないことには……。
おや、冒険者じゃないか。悪いね、考えごとをしてたんだよ。グランドカンパニー「双蛇党」によこそ！



蜜の道を辿って

ボルセル大牙佐： ここは、グランドカンパニー「双蛇党」の統合司令部だね。入党志願かな？ 冒険者くん。

イダ： やっほー！ ざんねんだけど、今日は別件だよ。

ボルセル大牙佐： やあ、イダくんに、バビリモくんじゃないか。そうか、君は「暁の血盟」に協力してるんだね。

バビリモ： 依頼があったって聞いてね。 ……詳しい内容を教えてくれるかい。

ボルセル大牙佐： うん、お願いしたい調査というのは、ほかでもない。黒衣森の奥に住む、シルフ族。……そして、蜜神「ラムウ」の調査さ。
僕らグリダニアは、カヌ・工様の方針により、軽々と戦を起こすことを良しとしない。
だからこそ、僕らの目の届かないところで、グリダニアの脅威が育っていくのを見逃している可能性があるんだよ。
グリダニアとシルフ族とは、友好的な関係にある。……とはいえ、彼らもまた蜜族だ。
第七霊災以降、この不安定な状況では、彼らも、いつ蜜神「ラムウ」を顕現させるのか、わかったものではないからねえ。

バビリモ： ……なるほどね。グリダニアの言い分は理解できるよ。

ボルセル大牙佐： ……蜜神「ラムウ」を討つべきか、否か。これまでの、グリダニアとシルフ族との関係を問わず、中立的な意見を集めたいんだよ。
まずは、蜜神「ラムウ」を呼び出した、当のシルフ族に、話を聞いてきてもらえるかい？
彼らが今、どういう考えなのか把握しておきたいんだ。
僕らが話したんじゃ、どうしたって、グリダニア寄りの意見になってしまうだろう？ 君たち「暁」の立場で、冷静な分析を頼むよ。
東部森林にある「**シルフの仮宿**」に住まうシルフ族は、蜜族「ラムウ」のデンバード（信徒）ではなく、
我々と常に対話を続けてきた温厚な一族だ。
ただ、シルフ族は独自の文化をもった蜜族でねえ。対話の際に失礼があっちゃあ困るだろう？
シルフの仮宿への道中「**ハウソーン家の山塞**」に寄って、現地に居る将校から、彼らの習慣について話を聞くといい。
よろしく頼んだよ。

バビリモ： よし、依頼内容はわかった。まずは、その将校に話を聞けば良さそうだ。
「ハウソーン家の山塞」に立ち寄るなら、旧市街の東棧橋から出ている舟を使おう。

イダ： なんととしても、シルフ族とは話し合いで解決したいね！

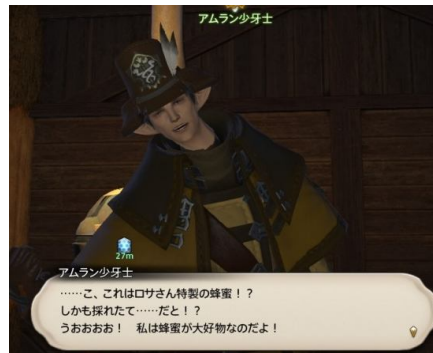
ミデニー : この坂の下にある棧橋から、黒衣森の東部方面への舟が出ている。
……ふむ。「ホウソーン家の山墓」へ行きたいのか。ならば、ここから舟に乗り、到着後は東へ進むといい。
道すがら見える「フルフラワー養蜂場」には、**ホウソーン家の夫人**、**ロサ**さんがいらっしゃるはずだ。
山墓へ向かうなら挨拶しておくのだぞ。

ロサ・ホウソーン : あら……あなた、冒険者？ ちょうど良かった！ 冒険者ギルドへ依頼を出そうとしていたところだったのよ。
この養蜂場では、蜂蜜や蜜蝋を採っているの。でも最近、蜜蜂のサナギを食料にするために、
ホーネットが巣箱を襲って困っているのよ。
問題の「キラーホーネット・クラウド」の退治をお願いしたいの。周辺の巣箱の近くに潜んでいるのを全滅させて。
よろしく頼むわね！



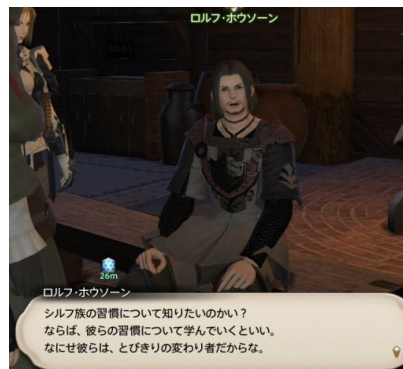
ロサ・ホウソーン : キラーホーネット・クラウドを退治してくれたのね！ 助かったわ、ありがとう！
これで、蜜蜂たちも安心して蜜を集めてくれるわ。
……あら、うちに用があったのね。「双蛇党」の将校さん……？ アムランさんのことかしら。
あの方は、ジョスラン監視哨の勤務なのだけど、確かに休憩の時は、うちによくいらっしゃるわ。夫のロルフとも気が合うみたいだね。
そうだ、アムランさんにご用なら、この「採れたての蜂蜜」を手土産にしないかな。彼は蜂蜜が大好きなの、きっと喜ぶわよ。

アムラン少将 : いかにも、私が「双蛇党」のアムランだ。「暁」の方だな、統合司令部から連絡は受けているよ。……おや？ 私に手土産だって？
……こ、これはロサさん特製の蜂蜜！？ しかも採れたて……だと！？ うおおおお！ 私は蜂蜜が大好物なのだよ！
いくつになっても、手土産とはうれしいものだ。ありがとう、大切に味わわせていただくよ。
……さて、シルフ族について知りたいのだったな。
シルフ族は警戒心が強いのだ。特に黒衣森に「ガレマール帝国」が侵入してからは、急速に態度を硬化させている。
しかし、警戒さえ解ければ、とても友好的な種族になる。彼らは警戒心と同じくらい好奇心が強いからな。
そういう意味では、我々も変わらないか。
そうだな、ロルフの旦那にも聞いてみるといい。シルフ族の習慣については、この地に長く住む、旦那のほうが詳しいだろう。



変わり者の挨拶

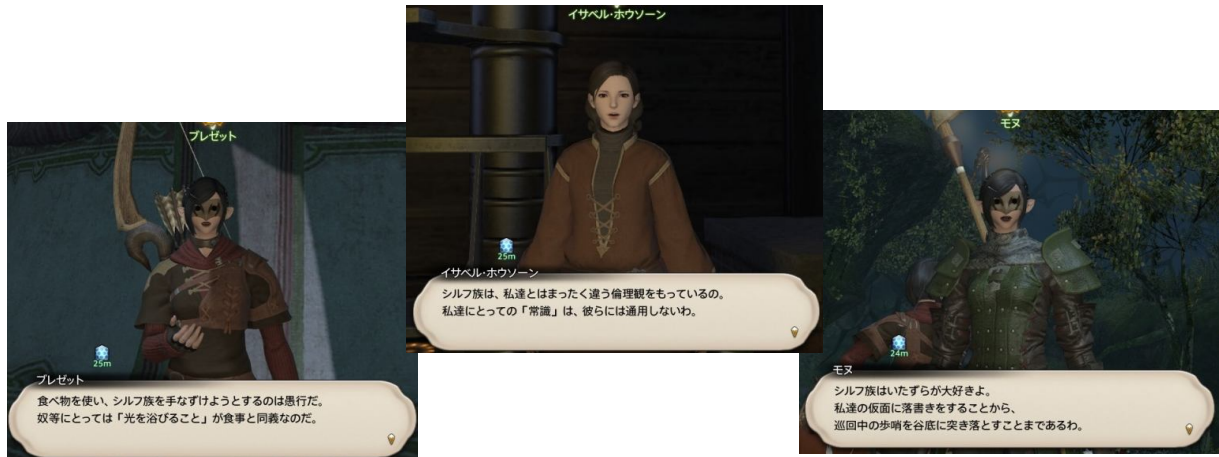
コルフ・ホウソーン : シルフ族の習慣について知りたいのかい？ ならば、彼らの習慣について学んでいくといい。なにせ彼らは、とびきりの変わり者だからな。
この辺りの者は皆、シルフ族との付き合い方は承知済みさ。シルフ族の習慣については、皆に聞いてみるといい。



プレゼット : 食べ物を使い、シルフ族を手なづけようとするのは愚行だ。奴等にとっては「光を浴びること」が食事と同義なのだ。

サベル・ハウソーン : シルフ族は、私達とはまったく違う倫理観をもっているの。私達にとっての「常識」は、彼らには通用しないわ。可愛い見た目をしているからって、油断しちゃだめよ。気を抜くと顔に落書きされちゃうんだから。

モヌ : シルフ族はいたずらが大好きよ。私達の仮面に落書きをすることから、巡回中の歩哨を谷底に突き落とすことまであるわ。危険なことはやめてくれて彼らに伝えても、シルフ族にはそもそも悪気がないから、全然わかってくれないのよね。



コルフ・ハウソーン : どうだ、皆に聞いてわかっただろう？ シルフ族は我々とまったく異なる文化をもっているのさ。例えば「挨拶」なんかは……これだ。シルフ族にとってはこれ……つまり「踊る」ことが挨拶さ。彼らと会うつもりなら、覚えておくといいだろう。

魅惑の手土産

コルフ・ハウソーン : シルフ族に会いに行くなら、手土産でも持っていったほうがいだろう。とはいえ、オレはシルフ族の好みは知らなくてな……。そうだ「フルフラワー養蜂場」にいる、オレの嫁さんの「ロサ」に聞いてみたらどうだ？ 蜂箱にイタズラをされないために、シルフ族の生態についてかなり詳しく調べてたはずさ。

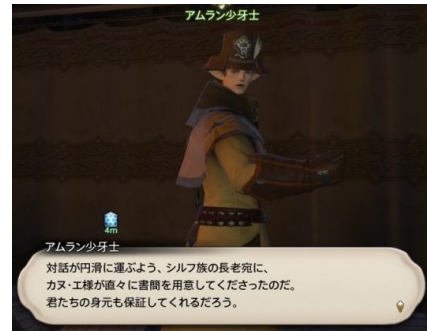
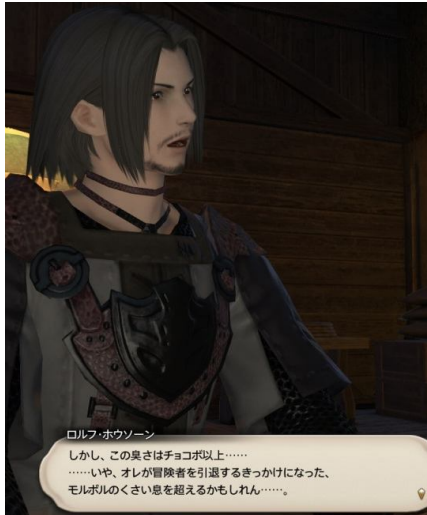
ロサ・ハウソーン : あら、今度はシルフ族の好きなものが知りたいの？ 彼らはね、人と違って蜂蜜なんかじゃ喜ばないわよ。もっとゲテモノが好きなんだから。シルフ族が好きなのはね、「ミルクルート」……草木綱（そうもくこう）に属する魔物の根っこのことよ。唾むと出てくる白い液が、彼らの気分を高揚させるの。ミルクルートが欲しいなら……オチューが1体、近くの草むらにいたわ。この「銚色の薬液」を撒けば、現れるんじゃないかしら？

コルフ・ハウソーン : 手土産は用意できたか？ シルフ族相手だ、さぞかし可愛い手土産だろう。げ……ミ、ミルクルート……！？ たしかに、シルフ族にとっては酒みたいなものだが……。そのゲテモノを持っていくなら、状態が悪くならないよう、包装紙に包んでおこう。……いや、包ませてくれ……臭いがきついからな。

シルフ族との架け橋

コルフ・ハウソーン : ほら……ミ、ミルクルートを包んでおいたぞ……。これで持ち運んでも状態が悪くならないだろう。……あと、臭いの被害もなくなるはずだ。しかし、この臭さはチョコボ以上…… ……いや、オレが冒険者を引退するきっかけになった、モルボルのくさい息を超えるかもしれん……。これからシルフ族と大切な話をするんだってな。彼らは変わり者だが心優しい種族だ。諦めずに信頼を得ていけば、きっと話も通じるはずさ。またいつか、ここに立ち寄ることがあったら、冒険譚を聞かせてくれよ。蜂蜜酒を用意して待ってるからな！ そうそう、アムランさんも、あんたに渡したいものがあるようだ。話を聞いてみてくれ。

アムラン少牙士 : ハウソーンの旦那から、シルフ族の習慣について、いろいろと学べたようじゃないか。これで準備は完了ってところだな。この先の「シルフの仮宿」に、「コムシオ」という若いシルフ族がいる。彼はシルフ族の長老の側近であり、人との橋渡し役なんだ。ハウソーンの旦那から受け取った手土産と一緒に、この書簡をコムシオに渡してほしい。対話が円滑に運ぶよう、シルフ族の長老宛に、カヌ・工様が直々に書簡を用意してくださったのだ。君たちの身元も保証してくれるだろう。我々も、度重なるイクサル族との交戦で疲弊している。ここでシルフ族と争うことは、なんとしても避けたい。対話の成功を期待しているぞ！



コムシオ： 誰でふっち？ ……知らない「ヒト」は、信用できないのでふっち。知らんぷりでふっち……。

コムシオ： ……何の用でふっち？ ここは、わたびらの里なのでふっち。「挨拶」もできないようなら、さっさと帰るでふっち。

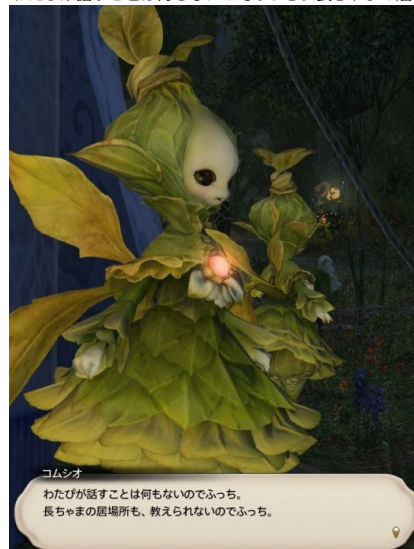
コムシオ： ごちこそ、よろびくでふっち……！？ わたびらの挨拶を覚えてきたのでふっち？ ……す、少しだけなら話を聞いてやるでふっち。

コムシオ： ヒトにびては感心なのでふっち……。……ふえ？ わたびに届け物なのでふっち？
これはこれは、ご丁寧でふっち。……この匂い……まさかミルクルートでふっち！？ これは嬉しいお土産でふっち！
ありがたく頂戴いたしますのでふっち。お手紙は、あとで長ちやまにお渡しするでふっち。
それで、わたびらに何かご用でふっち？

イダ： あたしたちは、グリダニアの使者として来たの。

ババリモ： あなたたちの神である「ラムウ」のことについて、少し話をしたいんだ。……長老は居られるかな？

コムシオ： ええ？ グリダニアから来たのでふっち？ 困ったでふっち……。
……でも、やっぱりダメなのでふっち！ 知らない「ヒト」は、信用できないのでふっち！
わたびが話すことは何もないのでふっち。長ちやまの居場所も、教えられないのでふっち。



イダ： えーっ！ これまでは、グリダニアとお話してたんじゃないの？

ババリモ： グリダニアからの正式な書状もある。それでもダメかい？

コムシオ： ダメなものはダメでふっち。……とにかく長ちやまとは、話させないのでふっち！

イダ： うー、すごい警戒されてる……。あたしたちって、そんなに嫌われることしたっけ？

ババリモ： ふむ……。何とかしてシルフたちから信用を得るしかないな。とりあえず、片っ端から話を聞いてみるか。

イダ： ねーねー、思ったんだけどさ。やっぱり信用の基本は「挨拶」からじゃないかな？
言葉は通じるんだもの、あとは心だと思っただよね！
手始めに、この「シルフの仮宿」のみんなに、シルフ族の挨拶をして回ってみるのはどう？
そーだ、神勇隊の人にも挨拶を見てもらおうよ。うちらがホンキだってところを、みんなにわかってもらうんだ！



イダ： だいじょーぶ、だいじょーぶ！ 真剣に伝えれば、きっとシルフ族もわかってくれるよ！

ババリモ： シルフ族は、クリスタルの交易なんかを通じて、ほかの種族と友好的な関係を築いてきた。
僕たちが仮宿に立ち入れるのも、その関係の賜物さ。
だけど、最近はどうも雲行きが怪しい……。蛭神「ラムウ」を召喚される前に、どうにか話し合いの場を設けたいね。

ザケウス： へえ、シルフ族に「挨拶」しているのか。だったら、オレが採点してやろうか。見せてくれよ。
……ダメダメ、点はあげられないな。ただでさえ故郷を離れて、神経質になってるんだぜ？ シルフ族の「挨拶」で安心させてあげるんだ。

ザケウス： うん、いい挨拶だな。満点だ。シルフ族は、だいたい陽気な性格だからな。心を許してくれれば話せるようになるさ。

イメディア： なるほど、シルフ族と打ち解けるために、彼らの「挨拶」をして回っているのですね。私にも見せていただいてよろしいでしょうか？
素敵な挨拶でございました。ですが、お気をつけくださいませ……。シルフ族の本拠地に住まうシルフにはそれすら通じません。



ベリクシア： 「ヒト」の言ってることは、よくわからないのでふっち。このまま寝ちゃいそう……ふっち……。
……「挨拶」なら、わかるかもしれないでふっち……。
こちらこそ、よろびくでふっち～。やっぱり挨拶はわかったでふっち～。でも、眠いのは変わらない……ふっち……。ぐう。

ノレクシア： これは、ごはんじゃないでふっち。糸を染めているところなのでふっち。「挨拶」も糸も、綺麗なのがイチバンなのでふっち。
こちらこそ、よろちくでふっち～。いっしょにお鍋を見守るでふっち？グツグツ……グツグツ……楽しいで……ふっち……。



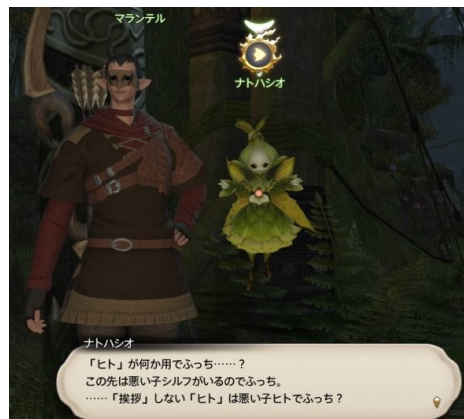
アミシア： あたぴは布のお手入れ中でふっち。……何でふっち？ 興味があるでふっち？
でも「挨拶」もできない「ヒト」には教えないでふっち。
こちらこそ、よろびくでふっち〜。でも、布の作り方は内緒なのでふっち。
……あたびらにしかできない、秘密があるのでふっち……。

デレシア： 何かご用でふっち……？ 「挨拶」も知らない知らない「ヒト」には深く関わるなって長ちゃまに言われてるでふっち……。
こちらこそ、よろびくでふっち〜。仮の宿に来て不安だったけど、カナ・エ・センナみたいに、
優しいヒトもいて安心したのでふっち。



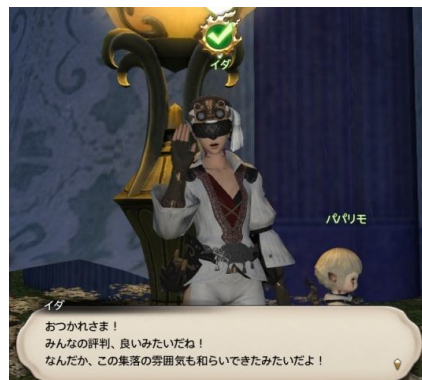
マランテル： ほう、シルフ族と友好を図ろうというのか。いい心がけだな。どれどれ、私にも「挨拶」を見せてもらえるかな。
うむ、その心がけだ！ だが気を付けろ、この先にいる凶暴化したシルフ族には、挨拶も言葉も通じないぞ。

ナトハシオ： 「ヒト」が何か用でふっち……？ この先は悪い子シルフがいるのでふっち。……「挨拶」しない「ヒト」は悪い子ヒトでふっち？
こちらこそ、よろちくでふっち〜。ふ〜、良い子ヒトでよかったでふっち。



パバリモ： シルフ族は、クリスタルの交易なんかを通じて、ほかの種族と友好的な関係を築いてきた。
僕たちが仮宿に立ち入れるのも、その関係の賜物さ。
だけど、最近はどうも雲行きが怪しい……。蛭神「ラムウ」を召喚される前に、どうにか話し合いの場を設けたいね。

イダ： おつかれさま！ みんなの評判、良いみたいだね！ なんだか、この集落の雰囲気も和らいできたみたいだよ！



仮宿暮らしの困りごと

パピリモ：◆◆◆、君は冒険者だ。これまで困ってる人たちの依頼を解決してきた。依頼主は喜んでいたはずだ。シルフ族も僕たちに言えないだけで、同じように困っていることがあると思うんだよ。特に、このシルフ族は、北東の「シルフ嶺」を追われ、この地を仮の宿としていて、さまざまな不便を強いられているらしい。それを解決すれば、少しは信用を得ることができるんじゃないかな？グリダニアから来ているイメディアが、シルフ族から、何やら相談を受けているようなんだ。彼女に詳しい話を聞いてみってくれるかい？

イメディア：あら、冒険者さん。私に何か御用でしょうか？
……まあ、シルフ族が困っていることを解決してきてくださるの？ それはうれしいお言葉です。この地の周辺には、シルフ族に書をなす魔物がいるのです。そうですね……「ジズ・ゴーリン」と「ガルナット」を、それぞれ5匹ずつ退治していただけますか？
もうひとつ、「ベニイロタケ」を5つほど、採ってきていただきたいのです。
あれは、シルフ族が生活するうえで必要なものなのです。
すべて終わりましたら「コムシオ」に伝えてください。きっと喜ぶと思います。では、よろしくお願いいたしますね。



コムシオ：ままだ、まだ居たのでふっち？ いくらみんなに挨拶しても、わたぴは信用しないでふっち。
……ふえ？ またも、わたぴに届け物なのでふっち？
これはこれは、ご丁寧にでふっち。……「ベニイロタケ」でふっち！？ これで染め物が楽しめるのでふっち！
ええ？ わたぴらをいぢめる魔物も、やっつけてくれたのでふっち！？ ……なんと心優ちき「ヒト」なのでふっち。
……アナタたびのことが、ようやく、わかってきた気がするでふっち。

知らないヒト

コムシオ：ここにやってきてから、いろいろあったのでふっち。だから知らない「ヒト」は、信用できなかったのでふっち。
……今まで冷たくびてゴメンなさいでふっち……。
でもアナタは、わたぴらのことを真剣に考えてくれたのでふっち。そんなアナタを見込んで、お願いがあるのでふっち。
……実は最近、この森で「妙な鎧をきたヒトたち」がうろうろしているようなのでふっち。
ソイツら「テイコク」なのかもちれないのでふっち！
せっかく作った仮宿が、壊されるようなことになったら大変なのでふっち。
「妙な鎧をきたヒトたち」を調べてほしいのでふっち。「シルフの仮宿」か、ご近所の「ハウソーン家の山塞」なら、目撃情報があるかもびれないのでふっち。
もしかしたら、ソイツらが長ちやまを……。……よろしくお願いいたしますのでふっち！

ナトハシオ：妙な鎧のヒト……見たでふっち！ 悪い子シルフみたいなヤツだったでふっち！ おともだちもいたみたいなのでふっち！！

ベリクシア：妙な鎧のヒト……確かに見たでふっち。何だか箱を大事に持っていたのでふっち。もしかして、宝物でふっち？ 宝探しでふっち！？



モヌ： 妙な鎧をきた男たち……。……まさか、帝国軍かしら。そういえば、森の奥に集まっていたようでしたけど……。

ヴィクター： 妙な鎧をきた男たちですって？ おそらくは帝国軍の連中のことでしょう。いったい、何を企んでいるのやら……。



コムシオ： 戻ってきたのでふっち？ 目撃情報はあったでふっち？
……ふむふむ、なるほどなのでふっち。妙な鎧をきた男たちは、やっぱり「テイコク」で……
「箱」を持って「森の奥に集まっていた」のでふっちね？
よち、わかったのでふっち！ きっと「テイコク」のヤツら、悪いことをしようとしていたのでふっち！
この辺りでコンコンできる場所は、アソコに違いないのでふっち……。
お願いなのでふっち！ 様子を見てきてほしいのでふっち！ 場所は、地図に印をつけておくでふっち。

コムシオ： どうだったでふっち？ 何か変わったことがあったでふっち？ ……ふえ？ またまた、わたびに届け物なのでふっち？
箱の中に、この紙が入っていたのでふっち？ ……これは「テイコク」のお手紙なのでふっち。
このお手紙には「ヒト」の食べ物や鉱石の名前が、いっぱい書いてあるのでふっち。
きっと、その箱に入っていたモノでふっち。
……あれれ、おかしいでふっち。「テイコク」のお手紙のハズなのに、この森で採れるモノばかりでふっち。
もしかびて、この森に住む誰かが、「テイコク」に物をあげているのでふっち……？
テキに手を貸すなんて、どういことなのでふっち？
とにかく調べてくれて、ありがとうでふっち！ 頼りになるでふっち！ アナタは、わたびらのおもだちでふっち！

クラクシオの決意

コムシオ： 頼りになるアナタに、お願いがあるのでふっち。シルフ族の「クラクシオ」が、ひとりで仮宿から出ていっちゃったのでふっち。
仮宿の外は魔物がいっぱいいてふっち。クラクシオだけじゃ危険すぎるのでふっち……。
今すぐ「シルフの仮宿」に連れ戻してほしいのでふっち！
「クラクシオ」は、仮宿を出て西の方に行ったのでふっち。魔物に襲われてないか、とっても心配なのでふっち。

クラクシオ： 誰でふっち？ 知らない冒険者でふっち……。……「シルフの仮宿」に帰れて言うのでふっち？
イヤなのでふっち！ ゼッタイ帰らないのでふっち！
シルフ族以外と一緒に住むなんてイヤなのでふっち。アタビは、よそにおうちを作ってひとりで住むふっち。
みんな冒険者とか衛士とかに頼りすぎでふっち。そんなの「神ちゃま」を呼んで頼てる、
悪い子シルフたちと、ぜんぜん変わらないのでふっち。
ここにおうちを作ろうと思ったけど、冒険者が追っかけてくるから、もっと奥に作るのでふっち。ついてきたら怒るでふっち！



コムシオ : ええ？ クラクシオは帰ってこないでふっち！？おまけに、森の奥に行っちゃったのでふっち！？
……困ったでふっち、どうしたらいいのでふっち……。
実はさっき、神ちゃまを呼び出した悪い子シルフが森の中に入っていくのを見たのでふっち。
いやな予感がするののでふっち……。
森の奥へ行ったクラクシオを追いかけて、探すのでふっち！ クラクシオはああ見えて、おっちょこちょいだから、
途中で糸や布を落としてるかもでふっち！

クラクシオ : さっきの冒険者でふっち！？ んもう、シツコイのでふっち……。仮宿には帰らないったら帰らないのでふっち！
わわ、悪い子シルフ！？ ……ななな、何の用でふっち！ アタビは良い子でふっち、悪い子にはならないでふっち！



ババリモ : ◆◆◆……。こいつらは、蜜神「ラムウ」に、テンバード（信徒）にされたシルフ族たちだ。
君も蜜神「イフリート」と戦った時に、テンバードになったアマルジャ族を見ただろう。

イダ : テンバードにとって、蜜神は絶対の存在なの。……もう、こちらの言うことは通じない。
やるしかないね……クラクシオを助けるよ！

シルヴァン・キッドナッパー : ワタチたちは仲間……一緒に、神ちゃまのところに帰るでふっち。

クラクシオ : イヤでふっち！ 悪い子なんて、大嫌いでふっち！

シルヴァン・キッドナッパー : 邪魔でふっち……森の仲間を呼ぶでふっち……！

ババリモ : モルボルだって！？ テンバードのシルフに操られているのか！

クラクシオ : あの子たちは、息がとんでも臭いのでふっち！ 浴びたらクラクラしちゃうでふっち！

イダ : うへえ……モルボルはアタシとババリモで抑えるから、キミは悪い子シルフたちをお願い！

ババリモ : このモルボルは様子が変わだぞ……？ モルボルは無視して、テンバードたちを倒すんだ！

イダ : うう、臭い～！ どうにかしてよ、ババリモ！

ババリモ : 僕だって我慢してるんだ！ あと少し……テンバードたちを倒せば、きっと！

クラクシオ : 助かったでふっち……。こわかったのでふっち……。

コムシオ : クラクシオ！ 怪我してないでふっち！？ 悪い子シルフになってないでふっち！？

クラクシオ : コムシオ……どうして助けてくれたのでふっち？ 仮宿を出ていったアタビのこと、嫌いじゃないのでふっち？

コムシオ : クラクシオは大事な仲間なのでふっち！ この冒険者も心配してくれたのでふっち。だから、助けるのはあたりまえのことですふっち！

クラクシオ : コムシオ……ごめんなさいふっち……。アタビは怖かったのでふっち。
仮宿のみんなが、シルフ族以外と仲良くしてたから、神ちゃまと一緒にいる子たちみたいに変わってしまったと思ったのでふっち。
でも、仲間のことが大事なのは変わってないのでふっち。アタビがおばかだったのでふっち……。
……助けてくれて、ありがとうなのでふっち。「ヒト」にも良い子が居たのでふっち。先に、コムシオと仮宿に帰ってるでふっち！

ババリモ : 一件落着だな。さて、僕たちも一度「シルフの仮宿」へ帰るとしよう。……モルボルの臭いも落としたいね。



コムシオ : クラクシオを助けてくれて、本当にありがとうでふっち。シルフ族はみんなで家族なのでふっち。大事な大事な家族でふっち！
……ふと、思ったのでふっち。きっとアナタは、わたびらシルフ族とヒトとの仲をもっと深くつないでくれる英雄に違いないのでふっち！
頼りになって、お友達で、英雄のアナタなら、うちの長ちゃまに会うことを認めるのでふっち！コムシオ：……でも、長ちゃまは……。

ただよえる長老

コムシオ : アナタには、いろいろ感謝しっぱなしでふっち。うちの長ちやまに会ってほしいけど…… ……実は、今は居ないのでふっち。少し前に、森に不穏な気配を感じたとかで、南部森林に出かけたきり、しばらく帰ってきていないのでふっち。長ちやまが、こんなに長い間、借宿を留守にすることは、今までなかったのでふっち。なんだか心配だから、調べてきてほしいのでふっち！
長ちやまが向かった辺りは、「**バスカロン**」という「ヒト」がリバを利かせているのでいるのでふっち。……わたびよりも、アナタみたいな冒険者が行った方が、バスカロンとの話も早そうなのでふっち。シルフ族とヒトとの仲のため、お願いするでふっち！
……そうでふっち。アナタたちは、グリダニアから来たんでふっち？
だったら、一度グリダニアに報告に行ったほうがいいのかもちれないのでふっち。
黙ってココを離れたら、怒られるかもしれないでふっち。

ボルセル大牙佐 : おや、特使殿じゃないか。どうかな、シルフ族の考えを聞けたらどうか？
……へえ、彼らの長老が行方知れずとはね。それは一大事だ、捜索に協力してあげたまえよ。もちろん、僕らも注意しておくがね。そうだ、南部森林方面へ向かうのであれば、道中の「ペントブランチ牧場」に立ち寄ってくれないか？
シルフ族の長老を街道沿いで見かけたら保護するよう、鬼哭隊の「**ギア・モルコー**」に伝えてほしいんだよ。



ギア・モルコー : 私が鬼哭隊のギア・モルコーだが？ ……『双蛇党』のボルセル大牙佐から伝言だと？ 了解した、早急に手配しよう。
……ふむ、これからバスカロンのところに行くのか？ ならば、この森を南に抜けるといい。
奴は南部森林で酒場を開いてるからな。

パバリモ : シルフ族が南部森林まで来るなんて予想外だよ。行方不明の長老は、いったい何を調べてたんだ……？
ともかく、長老を見つけないことには話もできない。君のおかげで飯宿の方は大丈夫そうだし、今はこの周辺の捜索に注力しよう。

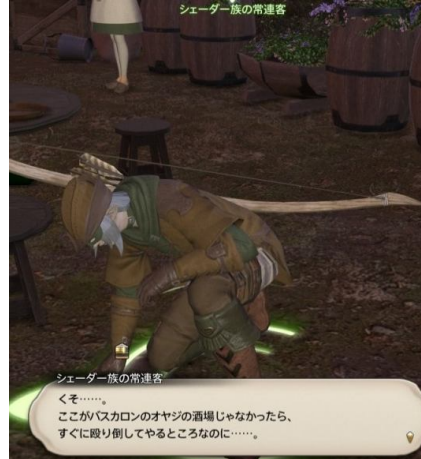
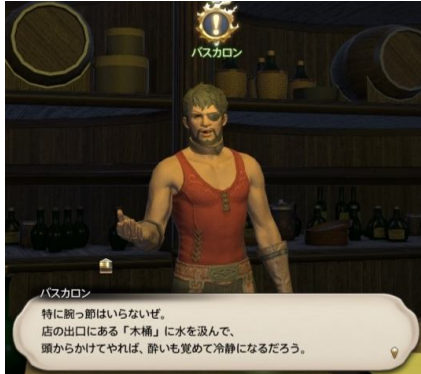
イダ : この酒場には、アタシたちもお世話になってるんだ。南部森林の情報をいち早く掴み取れば、バスカロンドラザーズに行け……ってね！

バスカロン : よう、よく来たな。俺は鉄腕のバスカロン。この酒房「**バスカロンドラザーズ**」の店主だ。
お前さん、この辺りでは、あまり見ない顔だな。まあ、ゆっくりして行くといいさ。
……なに、シルフの長老が行方知れずだって？ そいつは良くない話だな。よし、俺も調べておいてやろう。
ここには、衛士に商人、それに冒険者まで、幅広い客が一時の羽根休めにやってくる。……情報を集めるには持ってこいの場所だからな。



バスカロンドラザーズの掟

バスカロン：シルフの長老の情報が入ってくるまで、少し時間がかかるだろう。せっかくだ、情報を待つ間に依頼を受けてみねえか。
なに、ことは簡単だ。外のテーブルで暴れている奴を止めてきてほしいのさ。
特に腕っ節はいらないぜ。店の出口にある「木桶」に水を汲んで、頭からかけてやれば、酔いも覚めて冷静になるだろう。
うちの店では、飲むも騒ぐも構わんが、他人様に迷惑をかけるのだけは厳禁だ。ここの掟ってのを、しっかりと教えこんでやらねえとな。



シェーダー族の常連客：くそ……。ここがバスカロンのオヤジの酒場じゃなかったら、すぐに殴り倒してやるところなのに……。

ミッドランダー族の酔客：おら、何見てんだ……ひっく！ ……やんのかオラ！ セモンじゃねえぞ、コラア！
ぶわっ！ 冷てえ！ てめえ、何しやがる！ ……ああん？ ケンカって、この「シェーダー」野郎が……。
……この酒場で暴れるのはご法度、ってことか。くそ、今日はこの辺で勘弁してやる！



シェーダー族の常連客：ありがとうございます、おかげで面倒事にならずにすんだぜ。……ここは、俺たちのような「ならず者」も、受け入れてくれる数少ない酒場だ。
オヤジに迷惑をかけないためにも、酒場の掟は絶対だ。だから、店でのめ事は避けてるのさ。

バスカロン：よう、ご苦労だったな！ 酔っ払った勢いで、気に食わない相手に喧嘩を売るたあ、あとでキツイ灸をすえてやらんとなあ。
……いやもんをつけられてたのは「シェーダー族」だ。奴らは、都市から離れて森に暮らす者が多いため、
「ならず者」と見られることが少なくない。
確かに、ぶっきらぼうな連中だが、話をしてみりゃ、さほど悪い奴らじゃあねえ。シェーダー族ってだけで締め出すのは酷ってもんだ。
金を払って行儀よく酒を飲む奴なら、誰でも受け入れる。そんな場所がひとつくらいあってもいいだろう？
この「バスカロンドラザーズ」は、そんな酒場さ。

